

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は2021年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

2 練習について

- (1) 練習会場及び競技場では、逆走、チューブ・牽引ロープ・ミニハードル・ラダー等の器具を使った練習は、危険防止のため禁止とする。
- (2) W-u-p場での投てき練習は禁止する。
- (3) 走路の使用は、原則として以下の通りとする。状況により変更があるときは係員の指示に従うこと。

◎メイン競技場	利用可能時間 8:00~9:00	◆1~2レーン：中長距離	◆3~7レーン：短距離	◆8~9レーン：ハードル
◎補助競技場	◆1~2レーン：中長距離	◆3~7レーン：短距離	※ホームストレートは3・4レーンは快調走等、5~7レーンはスタートダッシュ使用可	
	◆8・10レーン（ホームストレートのみ）：ハードル	※9レーンにはハードルを設置せず空きレーンとする。		
◎雨天練習場	◆1~2レーン：ハードル	◆3~4レーン：短距離	◆5~6レーン：長距離	

3 招集について

- (1) 招集所は、本競技場メインスタンド下の屋内練習場に設け、第4ゲートより入場すること。（100mスタート地点側）
- (2) 招集時刻について

- トラック種目は競技開始20分前に完了する。ただし1500m・3000mは現地での招集とする。
- フィールド種目は競技開始30分前、棒高跳については60分前に完了する。ただし走幅跳・棒高跳は現地にて招集、走高跳・砲丸投は第4ゲート付近テントで招集を行い、集団で移動することとする。
- 四種競技においては、4種目ともトラック・フィールド競技にかかわらず競技開始20分前に完了する。

- (3) 招集の方法について

- 選手は招集完了時刻10分前までに招集所内の席で待機し、最終点呼を受けること。その際、競技者係にユニフォームのアスリートビブス（旧ナンバーカード）、スパイク、シューズ（厚底）、商標等の点検を受ける。（トラック競技のみ、腰ナンバーを受け取り、出発までに右腰部やや後方に付ける。）
- カメラ類、ラジオ、トランシーバー、携帯情報端末（デジタルメディアプレーヤーを含む）もしくは競技規則TR6.3.2に関わる電子機器を持ち込んではいけない。
- 代理人による点呼は認めない。2種目を同時に兼ねる競技者は、2種目同時出場届（招集所、HP掲載）を競技者係に提出し、競技の進行に支障のないようにすること。
- 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。
- 棄権する競技者は、招集完了時刻までに所定の棄権届（招集所、HP掲載）を競技者係に提出すること。
- アスリートビブスは所定の大きさのままで胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍競技は背部または胸部のみでもよい。

4 競技の抽選及び番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技におけるレーン順およびフィールド競技の試技順はプログラム記載順序による。ただし、準決勝・決勝の組み合わせ、レーン順は主催者が公平に決める。
- (2) トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たとき（以下「同タイム者」という）は、下記の方法で決定する。
 - 競技規則TR21.3に基づき、100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・4×100mRの同タイム者（チーム）については、判定写真を拡大し、1/1000秒まで読みとり着差の判定をする。それでも判定できない場合は、レーンの余裕の範囲内で次のラウンドに進むことができる。レーンに余裕のない場合は、同タイム者またはその代理人によって抽選する。
 - 1500m・3000mの同タイム者は、次のラウンドに進むことができる。

5 競技について

- (1) トラック競技
 - スターターの合図は英語（イングリッシュ・コマンド）で行う。

- イ 競技規則 TR16.8 により、不正スタート1回で失格とする。ただし、混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者はすべて失格とする。
- ウ トラック競技は全て写真判定装置を使用する。
- エ 予選出場者が9人以下となった場合は、決勝時刻に決勝を行う。(予選の招集完了時刻に決定)
- オ レーンの競走においては、フィニッシュライン通過後も自己レーン(曲線)に従って走ること。
- カ 3000mについては、気象状況によっては給水を実施する。
- キ リレー競技に使用するマーカーは、1人1ヶ所に限り使用することができる。マーカーは前走者が取り除くものとする。
- ク リレーのオーダー用紙(招集所、HP掲載)は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに1部を競技者係に提出すること。決勝においても同様にオーダー用紙を提出すること。一度申告した後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。招集完了時刻前であっても一度申告した編成の変更(オーダー用紙の差し替え)は認められない。医師の判断による変更のみ認められ、編成(走る順番)の変更は認められない。

(2) フィールド競技

- ア 競技場内での練習は、全て競技役員の手配に従って行うこと。
- イ 跳躍の競技者は、助走路の外側(走高跳は助走路内)に主催者が用意したマーカーを2個まで置くことができる。
- ウ 携帯電話等、競技規則 TR6.3.2 に関わる電子機器は競技場内に持ち込むことができない。
- エ 走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は、最後の1人になり優勝が決まるまでは下表の通りとする。
(なお、コンディションにより変更することもあり得る)

種別・種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	以後1人になるまで
男子四種	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m43	1m46	3cm ずつ
女子四種	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m33	1m36	1m39	3cm ずつ
男子走高跳	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	3cm ずつ
女子走高跳	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m51	3cm ずつ
男子棒高跳	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	3m50	10cm ずつ

6 競技用具について

- (1) 投てき用具は、競技場に備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができる。
- (2) スパイクシューズのピンは7mm以下とする。走高跳は9mm以下とする。なお、土のグラウンドの練習で、先端が丸くなったピンは使用できない。
- (3) 2021年度より改訂されたシューズの底厚規定に準ずる。(TR5.5)
 ※当協会HPから閲覧可能 <http://hal.ne.jp/trk/>
 ※規定外のシューズで出場した場合は失格となる。(記録も認められない)
 ※フィールド種目のシューズについては、スパイク、スローイングシューズは改定規則適用外とし、計測は行わない。ただしランニングシューズについては計測を行い、規定以上の靴底厚の場合、失格となる。

7 表彰について

表彰式は行わない。各種目の8位までに賞状を授与する。

8 その他

- (1) 本大会は無観客による大会とし、出場する学校・チーム関係者は当協会策定の「2021年度版大会開催ガイドラインSTEP4」に従って感染予防に努めること。 ※当協会HPから閲覧可能 <http://hal.ne.jp/trk/>
- (2) メインスタンド開門時刻は両日とも7:15とする。無観客大会のため、一部開場しない箇所もある。
- (3) 発病(新型コロナウイルス感染症も含む)、負傷に対しては応急処置以外の責任は負わない。医務室は本部にある。
- (4) 新型コロナウイルス感染予防により如何なる場所においても、発声による集団応援は禁止とする。また、拍手などによる応援についても競技の進行に配慮しながら応援すること。
- (5) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。
- (6) 当日の記録は、アナウンス・大型映像表示のみとする。ただし、鳥取陸協HP大会速報で確認することができる。掲示板には番組編成のみ掲示し、結果の発表は行わないこととする。

靴底の厚さに関する改定規則の対応について

2021 年度競技会より靴底の厚さに関する改正規則が施行されます。中学生以上の競技者についてはこの規則が適用されます。(※小学生以下は適用されません)

規則違反の場合は

- (1)大会に出場できません。
- (2)規定外のシューズで出場した場合は失格となります。

【改定規則によるシューズの仕様】

分類	種目	ソールの厚さ	補 足
T	800m 未満 (ハードル)	20mm 以内	リレー:各走者の距離で本規則適用
	800m以上	25mm 以内	リレー:各走者の距離で本規則適用
F	三段跳	25mm 以内	前部がかかとより厚くなってはならない
	跳躍・投てき	20mm 以内	前部がかかとより厚くなってはならない
RW	ロード・競歩	40mm 以内	※クロスカントリー25mm

※T:トラック種目 F:フィールド種目(跳躍・投てき) RW:ロード競技

◆4月 15 日付けで日本陸連より、フィールド競技用シューズについて以下の通達が発出されました。

※2023年 3 月 31 日まで

一部の競技会において本規則を適用除外とすることを可能とする

本協会では、以下の対応をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

- (1)上位大会につながる大会においては厳格に改定規則を適用する【靴底厚の確認をする】
⇒県選手権・高校総体・通信陸上・中学総体・国体選考会・県ジュニア・県新人 など
- (2)上位大会につながらない大会においては改正規則適用除外とする【靴底厚の確認は不要】
⇒記録会・地区選手権 など (投てき種目において従来通りのアップシューズでも出場可)
- (3)小学生についてはトラック、フィールドシューズともに靴底厚測定は行わない。
⇒全国交流大会予選会は全国大会規定に準じて規定する

【注 意】

- (1)以下の場合、改定規則の厳守が求められるので、記録をねらう選手は全ての大会で改定規則にあったシューズを使用すること。(大会出場ができない・新記録として公認されない)
○上位大会に出場するための参加標準記録達成 ○日本新記録を初めとする各新記録樹立
- (2)適用除外大会であっても「あきらかに有利に働くようなシューズ」については使用不可とする。どんなシューズでもよいということではない。

良きアスリートになる皆さんに正式な規則を知っていただきたいと思います。また、指導者の皆様にもこの措置の趣旨を十分ご理解いただき、柔軟かつ適切にご指導いただきますようお願いいたします。

競技場内における広告・展示物等の規則について

1 規則が適用される競技会

- ① 日本陸連主催・共催競技会（インターハイ・全日中・国体・U20U18 日本選手権等が該当します。）
- ② ナンバーカード広告採用競技会
- ③ テレビ・インターネット等で不特定多数の公衆に放送される競技会
- ④ 大会要項や競技注意事項で規則を適用すると宣言している競技会

2 衣類等の規則（製造会社名・ロゴマーク類）

	(上半身)	(下半身)
ベスト・レオタード	トップス・トレーニングウェア上衣・Tシャツ・トレーナー・レインジャケット	ショーツ、タイツ等
前面1箇所のみ 文字の高さ 4cm 以内 ロゴ トータル高さ 5cm 以内 面積 30 cm ² 以内	前面1箇所のみ 文字の高さ 4cm 以内 ロゴ トータルの高さ 5cm 以内 面積 40 cm ² 以内	1箇所のみ 文字の高さ 4cm 以内 面積 20 cm ² 以内

その他 バッグ：2か所まで 面積：25cm² ソックス：1か所 6cm² 帽子：1か所 6cm²
 サングラス：2か所 面積 6cm² 手袋：1か所 6cm²

3 NG (No Good =認められない) 例



重ね着した場合、下側の衣類は無地でなければならない

- ① 製造会社の商品ラインのブランド名サイズオーバー
- ② 製造会社のロゴ、ブランド名 2個目（複数）表示
- ③ メーカーの帯状の装飾的デザインマークが認められていない場所に掲載
- ④ 装飾的デザインマークに文字が使用されている ※製造会社ロゴ（商品ラインのブランドロゴなど含む）

注意！ メーカーでは競技場内で使うことを想定しないで売られているものがほとんどです。招集所から先で着るものについて競技会の前に点検しておきましょう。またチームでウェアを作る場合も気を付けましょう。